

### 新図書館・文教厚生常任委員会審議

# 移転スケジュールは決まったが

## —「中身はまだ決まっていない」市当局—



27日開かれた文教厚生常任委員会(佐藤恵子委員長)で新図書館建設の概要とスケジュールについて審議が行われました。市当局から移転計画のスケジュールと検討事項が示され質疑が行われました。概要をお知らせします。

**佐藤委員長** 新図書館の見取り図(パース)の提出がないがどうしたのか。

**生涯学習課長** 設計図ができていないのでまだ提出できない。

**戸津川委員** 駅北側には駐車場の確保は。

**副教育長** 必要台数を駅北開発会社と協議していく。

**戸津川委員** 365日開館するとう要望が出ているのか。

**生涯学習課長** 要望というより駅前が暗くなっているのか。財源が整えば365日開館したい。

**戸津川委員** 武雄市では、本の整理は夜やっている。企画コーナーもできなくなるのではないか。365日開館する必要はない。

**戸津川委員** 武雄市では1億1千万でCCCに委託しているが、赤字ではないのか。赤字経営では長続きしない撤退されたらどうするのか。ビル設計もCCC提案であり大変なことになる。

**生涯学習課長** 本、コピーの売上も勘案すれば赤字ではないのではないかと。

**戸津川委員** 司書にお金を扱わせるのか。

**生涯学習課長** ローターションで回すのでそういう場合もある。

**戸津川委員** 司書が一人前に



題字は池田和京さんにご揮毫いただきました。

**日本共産党 多賀城市議団**  
 多賀城市留ヶ谷二丁目11番23号  
 代表(3664) 3222  
 FAX(309) 39102

### ◇弁護士による法律相談

◇申込 電話で予約して下さい。  
 ◇電話 364-3222  
 ◇相談日 9月4日(水) 9月13日(金)  
 ◇時間 午後1:30～  
 ◇場所 旧阿部福商店となり塩釜県民の会事務所

### ◇議員による暮らしの相談

電話 藤原益栄議員 368-6623  
 070-6497-6623  
 佐藤恵子議員 367-0182  
 090-2027-9884  
 柳原きよし議員 368-1883  
 090-2605-4984  
 戸津川はるみ議員 090-7528-2075

### なぜ隠す？ CCCとの協議内容

教育委員会が7月25、26日に武雄市図書館を視察、指定管理を委託されているCCC(カルチャーコンビニエンスクラブ)担当者との協議をしたことがわかっていますが、協議内容が明らかにされていません。昌浦泰巳委員は次のように質しました。

**昌浦委員** 25、26日教育委員会で武雄市図書館に視察に行き、26日にはCCCと打ち合わせをしているはずだが、復命書の提出がないのはなぜか。

**図書館長** 26日は委託の話をしたわけではなく建物の構造的な部分を見せていただけである。

**昌浦委員** 指定管理について議論しなかったとは考えられない。なんのために視察にいったのか。

**生涯学習課長** 26日は館内を案内していただいたということだ。

**昌浦委員** 指定管理ありきで動いていないか、公募・入札するのか。

**副教育長** まだ決まっていない。指定管理が望ましいとなった場合は公募になる。

**佐藤委員長** 復命書があれば出すべきだが、無いということか。

**生涯学習課長** その通り。

**生涯学習課長** まだ固まったわけではない。

**戸津川委員** 図書館と書店は壁で仕切るのか、入口も分けるのか。

**生涯学習課長** 図書館は明確に分けると要望していくが最終決定はまだである。

**戸津川委員** 7月4日の図書館協議会で「三階建ての図書館と並列して二階建ての部分にツタヤが入る方向で固まった」というのはいつ決まったのか。

**生涯学習課長** 本屋と図書館は分離している。図書館の中にレストランがあるということはない。混在することはない。

**戸津川委員** 25年10月一杯を目処に結論を出すのか。

**戸津川委員** 25年10月一杯目ではないということはないか。白紙だということは考えられない。

**生涯学習課長** 決めなければならぬことは洗い出している。これから審議して決める。

**戸津川委員** 10月末に決めるのであれば、議会にもっと早く提案すべき。目指すべきは伊万里図書館のように直営ではないか。

**生涯学習課長** 市民サービス向上を目指すのであれば指定管理がいいという声も多い。

**戸津川委員** 管理運営形態を決めるのは教育委員会か。

**生涯学習課長** そのとおり。

### 東風城月

26日午後、『少年日』を観てきた。日ごと妹尾肇少年は神戸のクリスチャンの洋服屋の子。のちに河童と改名し、1997年、自分の体験をもとに小説として上梓した▼15年ほど前、この小説を読み、戦前の子どもの生活が初めてわかったような気がした。例えば校長先生が教育勅語を読み終るまでの状況。校長は白手袋をはめ奉安殿から教育勅語を捧げつつ子どもたちの前にたつ▼子どもたちは校長が教育勅語を読み終るまで、ずーつと下を向いていなければならぬ。鼻が垂れてくるがすすることができない。校長が読み終わった瞬間、講堂中に「ズズツ」という音が鳴り響いた、のぞきうた▼子どもたちが一斉に鼻をすすりあげる音なのだが、「本当にそのとおりだった」と伊藤昭二さんが言っていたことがある。多賀城小学校の奉安殿がコンクリート製になったのは昭和3年。奉安殿の解説に「少年日」はとても役立つ▼終戦後H少年は自殺を試みる。昨日まで「お国のために死ぬ覚悟を」「鬼畜米英打倒」などと叫んでいた大人がにわか平和主義者になり米兵に「ハロー」などと言ったりすることについていけなかったのである。まだの方にはぜひ。